



ようやく秋らしく…「読書の秋」を堪能しよう!

「スポーツの秋」「芸術の秋」「文化の秋」「食欲の秋」など秋がつく慣用句はたくさんあります。「読書の秋」もその一つです。「読書の秋」という言葉の起源の一つといわれているのが、古代中国の漢詩（略）です。この詩は、8世紀に活躍した詩人、韓愈（かんゆ）によって詠まれました。これを簡単に訳すと、「秋になり、長雨が上がって空が晴れ渡り、涼しさが丘陵にも広がる。夜の灯りがやっと身近に感じられ、本を広げて読むのが心地よい。」という内容です。この詩の一節が、涼しい秋の夜が読書に最適な季節であるという考えを広めるきっかけとなりました。昔の人々も、暑い夏が去り、ゆっくりと読書ができる秋を楽しみにしていたのかもしれません。

さて、本を読むことは、私たちに多くの効果をもたらします。まず、読書によって知識や情報を増やすことができます。本を通して様々なテーマや世界観に触れることで、幅広い知識と視野を養うことができます。

また、全国学力学習状況調査の結果からは、読書好きな児童生徒ほど全教科で正答率が高い傾向にあることがわかっています。これは、読書によって語彙力や論理的思考力が高まり、それが国語だけでなく他の教科の理解力向上にもつながるためです。

さらに、読書は脳の活性化にもつながります。言葉を読み解く作業や物語を追うことで、脳が活発に働き、思考力や記憶力が向上するのです。さらに、読書はストレス解消にも効果があります。作品に没入することで、現実から離れて心をリフレッシュすることができます。また、物語の中の登場人物と感情を共有することで、共感や共鳴を得られるため、心の安定を促す力もあります。さらに、人間関係の向上にも寄与します。本を通して様々な人物像や相手の視点を理解することで、人間関係を豊かにすることができます。でも、ゲームや楽しい遊びがたくさんあり、ネットで簡単に情報が入る昨今ですから、極めて残念なことです、「読書離れ」が加速しても不思議なことではありません。

私が学生の頃は、時間を見つけては本屋へ足しげく通いました。本屋のメリットは、新刊やベストセラーがひと目で分かる。本を手にとって見ることができる。ネットでは出会えない本と出会える。また、様々なジャンルの本があり、目当ての本があっても、いろんな本が目に入ります。興味のない本にも出会えるのが本屋の醍醐味だと思います。本屋に行くのは、知的な感じがする。後ろめたさがない。これがゲームセンターだったら、またちょっと気持ちが違っていたのかもしれません。本屋に行き、初めましての単行本や文庫本、雑誌、そして続きが気になっていたコミックなどをかう。でも、最近は街の本屋が少なくなって、少し寂しい気持ちになります。しかし、最近発見したのですが、この学校の図書館の蔵書を見るのがが楽しいのです。皆さんが下校した後、図書室の扉を開けています。ところで、最近、あなたが読んだ本は何ですか？



体育祭行われる! 『全力疾走!一丸となり駆け抜けろ 勝利への道』

秋晴れの空の下、今年度の体育祭が無事に終了しました。グラウンドには、生徒たちの元気な声と笑顔があふれ、どの競技からも「本気で臨む」姿勢が伝わってきました。特に盛り上がりを見せたのは、各国による応援合戦です。それぞれの団が個性を発揮し、会場全体を大きな拍手と笑顔で包み込みました。生徒たちが工夫を重ね、仲間と力を合わせて練習してきた成果が光っていました。

当日、応援に駆けつけてくださった保護者の皆様、そして温かく見守ってくださった地域の方々、本当にありがとうございました。皆様の拍手や声援が、生徒たちの大きな励みとなりました。

体育祭を通じて学んだことを、これからの学校生活に生かしてほしいと思います。



【1組団】



【2組団】



【3組団】